

セルフチェックシート

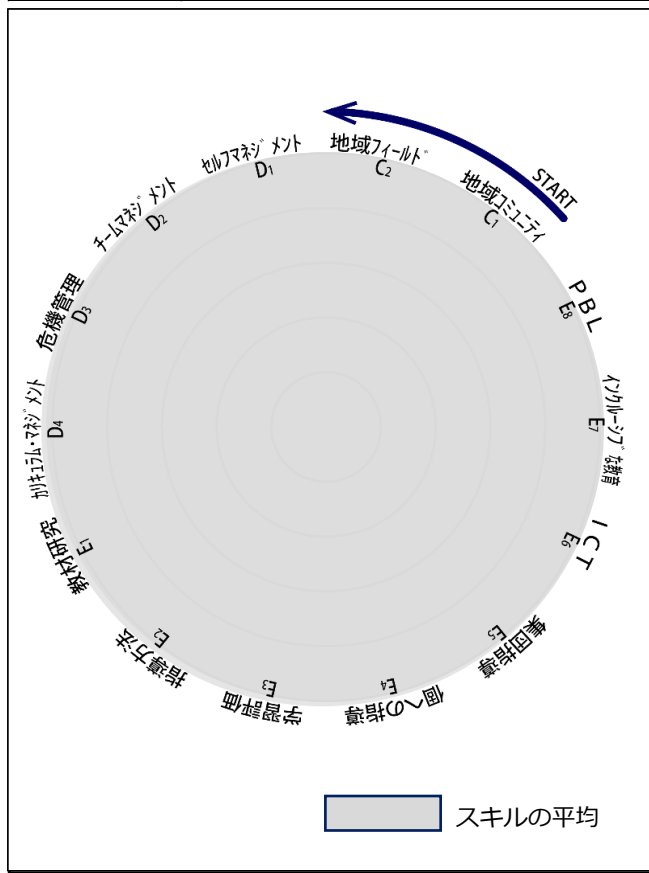
(キャリアアップ研修Ⅲ)

キャリアステージ **Ⅲ 充実期相当 (経験10年から20年程度)**

学校名 _____

氏名 _____

職名 _____



セルフチェックのまとめ

理念指標	繰り返し自覚し絶えず意識化を図る資質能力		日頃の心構え	
A 高い倫理観と使命感及び確かな子ども理解 ①社会の秩序と規律を遵守し、信頼される存在 ②教員としての責務の自覚 ③子どもに関する確かな科学的知見と深い人間愛				
B 確かな人権意識と共感力 ①全ての人の人権を尊重する態度 ②児童生徒や保護者の思いを感じ取る力				
実務指標	資質能力を支えるスキル	キャリアステージで身に付けるスキル	セルフチェック項目	
C 連携・地域協働社会と力 D 目標実現に向け、柔軟に対応する力 E 「教育のプロ」としての高度な知識や技能	C1 地域コミュニティの拠点としての学校づくり	・運営委員会と協働して活動を推進する中で、学校と地域が願いを共有して学校づくりに取り組めるようにする。	地域の方々と話合う場を設け、学校の課題やその解決方法について共通理解を図っている。 教科会や学年会に地域の教育資源や学習環境を紹介し、その効果的な活用について助言している。 地域の方からの意見を学校経営に反映させたり、学習支援ボランティアによる支援の充実を図ったりしている。	
		C2 地域をフィールドにした学びづくり	・地域をフィールドにした学習を推進するリーダーとして、自校・近隣校での実践の充実に寄与する。	教材化できそうな地域素材を積極的に発掘しようとして、職員間での話題に取り上げたりしている。 自校のこれまでの実践(題材や人材)を蓄積し、教員が入れ替わっても活用できる体制づくりを進めている。 より工夫した実践にするために、近隣校の取組に関心をもち、積極的に情報交換し合おうとしている。
	D1 セルフマネジメント	・職務に関する最新の動向を把握したり、自分が得意とするスキルを磨いたりして、力量向上を図る。	最新の教育情報を取り入れながら、自身の力量向上に努めている。 自身が得た教育情報を同僚に伝え、広めていくための校内研修を企画・運営している。 校内教員の範となる取組を学校全体に広めていく視点で、自身の目標を具体化している。	
		D2 チームマネジメント	・学校経営に積極的に参画し、自校の教育活動の状況を的確に把握しながら、校内の様々なチームや外部の専門職との連携・調整を図る。	児童生徒の実態や地域の実情、自校の教育活動の状況を的確に把握している。 校内の様々なチームや外部の専門職との連携・調整を図っている。 後進を育てるOJTに取り組み、ファシリテーターとして校内研修を企画・運営している。
		D3 危機管理	・発生事例やヒヤリハット事例を収集・分析するなどの研修を企画したり、危機を想定した訓練を行ったりして、学校の危機管理能力を高める。	発生事例やヒヤリハット事例を収集し、分析している。 日頃から、教職員、地域の関係機関等が連携できる体制を整備している。 学校の危機管理能力を高める研修を行っている。
		D4 カリキュラム・マネジメント	・児童生徒や地域の状況に関するデータ等に基づき、教育課程の編成・実施・評価・改善を行う一連のPDCAサイクルを確立する。	各種調査結果のデータ等に基づいて、教育課程の実施状況、保護者や地域住民の意向等を把握している。 創意工夫を加えて、教育課程を編成したものを「見える化」して共有する機会をつくっている。 教育課程の編成・実施・評価・改善を行う一連のPDCAサイクルを行っている。
	E1 教材研究 (Plan)	・教科会や学年会で教材研究を行う時間を確保するとともに、教材研究の仕方を学校全体で揃える。	同僚へ指導や助言をし、周囲の学ぶ意欲を高めている。 「素材の何に着眼し、どのように追究させればよいか」など、素材や教材化の研究の仕方を、教科会や学年会などで示している。 模擬授業を見合ったり、同じ授業を同じ内容で複数の教員が行ったりするなど、授業実践を推進するための働きかけをしている。	
		E2 指導方法 (Do)	・校内で互いに授業を見合う機会を設定し、創意工夫に基づく指導方法の不断の見直しに学校全体で取り組む。	日々の時間の中で、周りの同僚と学び合う時間をもっている。 校内で互いに授業を見合う機会を設定している。 教材研究や指導方法について、同僚に助言を行っている。
E3 学習評価 (Check-Action)		・様々な教育活動で行われている学習評価を関連付け、学校全体の学習の成果を的確に捉え、教育課程の改善に生かす。	全校の児童生徒の学力や体力の向上につながる具体的な取組を提案し、学校全校で取り組める体制づくりをしている。 様々な教育活動で行われている学習評価を関連付け、学校全体の成果と課題を把握している。 教科や学年の枠を越えて自校で育てたい資質・能力を重点化し、評価の指標や方法を示している。	
E4 個への指導		・児童生徒の状況を日常的に把握し、適時性のある指導方針を示したり、ケース会議の充実を図ったりして、学校全体の生徒指導をリードする。	学校内外の状況について日常的に実態を把握し、指導方針を明確化している。 学級担任、教科担任に対して適切な指導や助言を行っている。 校内の関係する教員、家庭、関係機関に働きかけ、ケース会議を行っている。	
		E5 集団における指導	・自らの実践を通して、校内における望ましい集団づくりをリードする。	児童生徒が互いに理解・信頼し合い、自己の存在感を感じることができる望ましい集団づくりの実践例を校内に示している。 計画的・組織的に集団理解や対応を行うための施策や、チームによる対応のためのコーディネートをしている。 校内研修やケース会議などにより、共に考え合い協力して対応していく風土を校内に醸成している。
E6 ICT活用		・教職員のICT活用指導力を把握し、校内研修を計画的に行ったり、一人一人の実態にあった研修の内容や方法をアドバイスしたりして、教職員の指導力を高める。	実態調査などをもとに、自校の教員のICT活用指導力を把握している。 学校の実態に応じた職員研修を計画的に行ったり、ICT活用に関する実践の紹介をしたりしている。 一人一人のICT活用の経験や活用力に合わせた提案やアドバイスをし、教員のICT活用力を高めている。	
		E7 インクルーシブな教育	・長いスパンでの児童生徒の育ちを見通し、関係者をコーディネートして適切な支援を行うとともに、事例検討会等を通して、同僚をリードして共に専門性を高める。	自己の経験と同僚や支援者の意見等、様々な情報を関連付けながら、育ちを見通した適切な支援を行うことができる。 積み上げた経験や教育技術を生かしつつ、児童生徒に柔軟に対応しながら、自発的・自治的に活動できる集団づくりをしている。 校内の学習環境の改善、指導・支援等について同僚へ助言、自分の実践の発信等を通して、校内の特別支援教育をリードしている。
			E8 PBL	・PBLを推進するリーダーとして、自校・近隣校での実践の充実や教員の専門性の向上に寄与する。